

神奈川病院だより

基本理念 私たちは地域の皆様から信頼される病院づくりに努め常に新しく良質な医療の提供をします



神奈川病院は令和6年1月21日から1月25日の期間、石川県輪島市へ医療班派遣を行いこの度表彰状をいただきました

独立行政法人国立病院機構は国民の公衆衛生の向上及び増進に寄与することを目的としておりこれからも尽力いたします。

第72号 目次

- | | | | |
|----------------------|---|-------------------|---|
| ○年頭所感 | 2 | ○症例検討会を実施しました | 6 |
| ○第78回国立病院総合医学学会に参加して | 3 | ○『お仕事ノート』に掲載されました | 6 |
| ○秋楽祭を実施して | 4 | ○地域医療機関紹介 | 7 |
| ○秦野市民の日に参加して | 5 | ○各科診療担当表 | 8 |

新年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

1939年に傷病軍人神奈川療養所として創設され85年目の2024年、私は15代目の院長を拝命しました。人材・財政・設備、多くの課題を抱えての船出でありましたが、本年も職員一同、地域医療とセーフティネット医療（結核・重症心身障がい）への貢献に努力を続けてまいります。

まず「人材の回復」を重点課題とし、機構本部から看護師派遣の支援を受けながら、昨年は手分けして青森から鹿児島まで30を超える看護学校や大学医学部・看護学部を訪問し、支援・協力をお願いしました。生き方や働き方が多様化する今、当院の特性に共感し将来を託したいと思う人材が、ここに集まる未来を信じて本年も活動を続けます。

また昨年10月に私達は大きな「挑戦」、新たに制定された地域包括医療病棟を開設しました。ここでは、高齢者の急性期治療と同時にリハビリテーション、栄養指導、服薬指導などの包括的ケアを展開し在宅復帰を推進します。この実現のため多くの職種のスタッフが尽力し、半年間の仮想設定運営を経て、困難な基準を満たす準備を整えました。団塊の世代が後期高齢者となる節目の本年、地域医療へのさらなる貢献を目指します。そしてこれらの努力は、当院のもう一つの使命である「セーフティネット医療」の充実や、老朽化した外来・検査棟の「建て替え」計画にもつながると信じています。

昨年9月に4年ぶりに開催された症例検討会は、近隣医療機関の方々と共に総勢100名を超える交流の場にもなり、盛況のうちに終えることができました。また11月の市民祭では日赤病院と共同で出店し、5つの出し物にのべ1200名以上の市民の方々にお立ち寄りいただきました。地元医療機関や市民の皆様の温かいご理解とご協力、そして私達の底力をも再確認するに至りました。

自然豊かな環境に恵まれたこの地で、「信頼される病院」「良質な医療の提供」という理念を胸に、引き続き職員一丸となって皆様に愛される「そら色の病院」の再興を目指します。

本年が皆様にとって健康で実り多い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



第78回国立病院総合医学会に参加いたしました

令和6年10月18日（金）19日（土）グランキューブ大阪（大阪国際会議場）にて

院長 中村 守男

重症心身障害者病棟で生じた新型コロナウイルス以外のウイルス感染症クラスターの経験

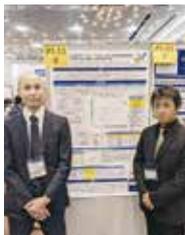
昨年重心病棟で発生した、ヒトメタニューモウイルスとライノウイルスのクラスターの経過や対応を報告しました。感染対策の緩和を背景に、多様な感染症の重心病棟への侵入、また感染対策自体がもたらした既存病原体の病原性増強などの可能性を考察しました。

薬剤部製剤主任 鳥海 真也

〈ベストポスター賞 受賞〉

FDA副作用データベース（FAERS）に基づく薬剤関連顎骨壊死の特徴と当院で経験した肺がんの9例

薬剤関連顎骨壊死（ヤクザイカンレンガッコウジ）は薬の影響により顎（あご）の骨が壊死してしまう稀な副作用です。副作用のデータベースから解ったことと当院で経験した事例について報告してきました。（本人写真左）



4病棟看護師 脇 柊子

口腔健康診断ツールを用いて誤嚥性肺炎の発症リスクの段階を明らかにする-第2報-

今回、初めての学会参加でしたが、先輩方の協力もあり無事に発表することができました。昨年度の研究内容は今年の研究にも活かされるので、今年の研究もより頑張らなくてはと気が引き締められました。この経験を臨床に活かしていきます。



8病棟看護師 夏井 純

重症心身障害児者における腹臥位療法を継続させるための安全確認

腹臥位を安全に実施できるように手順を写真に撮り、学会で発表してきました。

今後も研究に取り組んでいきたいと思っています。



外来診療部長 齋藤 良一

湘南病院前脳卒中スケール（SPSS）を用いた脳卒中疑い傷病者の病型解析

脳卒中を判別するため救急現場で使用されている湘南地区独自の脳卒中スケール（SPSS）の有用性について、秦野市消防本部の小室健司さんと共同研究した結果を発表しました。



手術室看護師 小谷 貴子

病棟から手術室に異動となった看護師を受け入れる環境の調整

今回、初めての学会発表でしたが、師長や同僚の協力を得て無事に発表を終えることができました。学会でのたくさんの学びを、今後の業務に活かしていきたいです。



4病棟看護師 澤田 舞

認定看護師のコンサルテーション依頼の増加に向けた取り組み

認定看護師として院内での活動について発表しました。今回の経験をまた次回に繋げて、日々の活動に取り組んでいきたいと思っています。



2病棟看護師 三堀 颯太

〈ベストポスター賞 受賞〉

離床センサー開始判断における看護師のアセスメントに関する研究

当院に転倒転落アセスメントシートはあるものの、評価や判断に困ってしまう意見が多かったため、ナースコールを押すという簡易的に評価できる指標を作成し、看護師の判断の迷いが軽減し転倒転落も減少したことを発表しました。



重症心身障害児者病棟で秋楽祭を行いました

療育指導室 野中 恵美

10月2～3日、重症心身障害児者病棟(7・8病棟)で毎年恒例の秋楽祭を開催しました。2日と3日の午前中はお天気に恵まれ病棟横の屋外で、3日午後は雨脚が強くなったため急きょ屋内(病棟3階)で実施しました。ヨーヨー釣りや射的、輪投げ等のゲームの屋台を楽しんだり出来立てのわたあめを味わったり顔出しパネルで記念撮影をしたりして日常とは異なる時間を過ごしました。わたあめを自らほおぼる方、アイスの冷たさにびっくりした後溶けて甘い味が口に広がり思わずにっこりする方、傾眠傾向の方がずっと目を開けて過ごされる等、普段見られないご様子が多く見られました。

また、今年は新型コロナ感染拡大の2019年以来5年ぶりに外部の演者(ちんどん屋のどってこ座さん)を呼び、ご家族も参加(予約制)しての開催となりました。久しぶりの賑やかな雰囲気、ご家族と回るお祭りにずっとニコニコ、あふれ出る笑みを浮かべ、楽しさや嬉しさを表出する利用者様だけでなく、ご家族も支援学校の先生達も病院職員も皆、笑顔でお祭りを満喫しました。



秋楽祭は、職員等もご家族もどってこ座さんもマスクを着用し、都度手指消毒や物品消毒を行い、病棟別の二日に分けて密を避けるなど感染拡大防止対策を徹底して行いました。

現在、7・8病棟には約110人の重症心身障害児者の方が暮らしています。重症心身障害とは、重度の肢体不自由と知的障害とが重複した状態です。当院の利用者様は自力歩行が難しく、移動は主に身体にあわせた特別な車椅子を使用し、ご自分で自由に外出したり車椅子に乗ったりすることはできません。また、肺炎や気管支炎を起こしやすい等の健康面の特徴を持つ方も少なくありません。世間ではマスク着用が必須ではなくなりましたが、重症心身障害児者の方たちは感染症にかかると重症化するリスクが高いため、現在も面会制限等の感染対策が必要です。秋楽祭は、病棟内で一人のコロナ陽性者や複数の熱発者がいたら、秦野市内等の感染状況が悪化していたら中止でした。病棟内で感染対策を徹底しても感染を完全に防ぐことはできません。当院職員以外の方も、引き続き一人ひとりが感染対策を継続することで、感染拡大の抑制となり、利用者様の制限も緩和できます。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

秦野市市民の日に参加しました！

企画課長 平野 乃亜

去る11月3日（日）に秦野市市民の日のイベントに神奈川病院として参加しました。このイベントは毎年11月3日に秦野市カルチャーパークを会場に開催され、ステージパフォーマンスや各種団体の出店等が行われる市民参加型のイベントとなっており、当院も市民の皆様とのふれあいや健康増進を目的として、医療相談や骨密度測定、野菜摂取量測定、お子様を対象とした白衣撮影やバルーンアートなど様々な企画ブースを出店いたしました。

当日は、前日の大雨から一転、突き抜けるような快晴の青空が広がる絶好のイベント日和で、当院のブースにも多くの来場者がお越しいただき、各企画とも長蛇の列をつくる大盛況となりました。院長、副院長をはじめ多くの病院スタッフは、来場していただいた方々への対応を休む間もなく行っておりましたが、そんな中でも、普段の病院内での業務とはまた違ったイベントの雰囲気を楽しんでおりました。



会場に来た方々も、白衣撮影ブースで、かわいらしい子供たちが普段は着ることの無い白衣に袖を通し、時にはにかみながら楽しそうにご両親に写真を撮ってもらったり、野菜の摂取量測定の結果に一喜一憂しながら盛り上がったりと、皆イベントを楽しんでいる様子が伺えました。

また、今回は隣のブースの秦野赤十字病院の皆様と事前に連絡をとり、初の試みとして、神奈川病院と秦野赤十字病院の共同出店という形をとらせていただきました。普段から、両院ともそれぞれの強みを生かした地域医療連携をおこなっておりますが、このイベントに共同出店したことで、お互いの顔が見える関係性が構築でき、より一層この秦野地域の医療連携体制の強化につながったと実感しているところです。



最終的に当院のブースに足を運んでいただいた方は、1200名ほどとなり、普段は病院と縁遠い方も含め、多くの方に神奈川病院と秦野赤十字病院を知ってもらえるいい機会となりました。来年も市民の皆様にご喜んでもらえるような企画を考え、ぜひまた11月3日のこのイベントに参加したいと考えております。

神奈川病院はこれからもこうした機会を利用しながら、地域の皆様にとって、頼りとされ、親しみのある病院を目指していきますので、引き続きよろしくお願いたします。

地域医療連携症例検討会を開催して

経営企画室長 益子 正美

去る9月11日水曜日の午後7時から、秦野商工会議所において「第23回地域医療連携症例検討会」を開催し、地域の医療機関関係者が68名、院内の職員が40名、合計108名と多くの方々に参加していただきました。



令和元年12月中国武漢市における原因不明のウイルス性肺炎の発生、令和2年1月国内で初の新型コロナウイルス感染症患者を確認、同月WHOが「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言、日本でも新型コロナウイルス感染症を感染症法における指定感染症に指定され、その後も感染は拡大し、4月に日本で初めて「緊急事態宣言」が発出されたが、その後も何度も繰り返された。しかし、昨年5月に5類に移行され、人々の行動制限が緩和された。その後、コロナ前の日常生活が戻ってきました。

そして、今年約5年ぶりに地域医療連携症例検討会を開催することになりました。約5年ぶりの期間は、当時の症例検討会を知るものが少なく、過去の写真を参考にしたり、会場を訪れイメージを育んだり、経験者を頼りに打ち合わせを何度も繰り返し、何とか開催でき、今はほっとしています。

この経験を、次の開催にも生かしていきたいと思っております。

神奈川病院が『お仕事ノート』に掲載されました

庶務係 西 康一郎

このたび、秦野市内の小学3・4年生を対象とした副教材本『2024年度版小学生のためのお仕事ノート』（秦野市版）に神奈川病院が掲載されました。こちらは自分たちの住んでいる地域の様々な業種を知ること、子供たちが将来の夢を考えてみるキャリア教育の副教材本として配布されるものです。

神奈川病院は病院で働く様々な職種について紹介しております。病院で働く人といえば医師と看護師をまず思い浮かべる方も多いと思いますが、そのほかにも薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、管理栄養士などなど病院では沢山の職種が働いていて、毎日患者様の治療のために頑張っていることを分かり易く紹介いたしました。そのほか小児科医師からの働くことのやりがいについてのインタビュー記事や能登半島地震の被災地へ医療班を派遣したことなども紹介しました。

これをきっかけに秦野市内の子供たちが神奈川病院を知ってくれて、更に病院で働くことに興味をもってもらえたらとても嬉しく思います。



一般社団法人秦野伊勢原医師会

東・北地域高齢者支援センター

管理者 神戸 佳一

住所 〒257-0031 神奈川県秦野市曾屋11番地
Tel : 0463-81-0990 Fax : 0463-82-7877



地域高齢者支援センターは市内に7カ所あり、基本的に各地域内の65歳以上の方を対象に相談支援を行っています。中でも私たち東・北地域高齢者支援センターは、最も担当地域が広く、特に地域内に存在する総合病院として神奈川病院に通院されている方が多く住んでいる地域でもあります。必然的に神奈川病院と連携する機会も多く、お互いに良い関係性が築けています。

東・北地域高齢者支援センターは、現在、主任介護支援専門員2名、社会福祉士4名、保健師1名、看護師2名、実態把握担当1名の計10名体制で業務を行っています。近年高齢化が急速に進み、年々高齢者の相談が増加しています。医療、介護、虐待、住まいや精神的・経済的な問題、またそれらが複合的に絡み合った相談も増えています。相談内容によって、各専門職員が専門性を発揮し、必要時は各関係機関と連携を図りながら問題解決に向けて取り組んでいます。



各科診療担当医表

令和6年12月1日現在

科別	曜日	月	火	水	木	金	科別	曜日	月	火	水	木	金		
一般外来系	内科	総合内科	小林(康) 再診のみ 中村	荒木	大和田	沖	小林(康)	一般外来系	小児科	小児科	萬木(晋) 石井 (9:00~)	萬木(暁) (9:00~)	佐藤(ひ)	伊藤(直) (9:00~)	萬木(晋)
		消化器内科	後町		[予]中島 (13:30~)	後町				渡辺(博) (9:00~)	渡辺(博) (9:00~)	石井 (9:00~)			
		糖尿病内科								[予]萬木(晋) (13:30~)	[予]萬木(暁) (13:30~)		予防接種 (第2・第4のみ)		
		循環器内科	内田	吉田 (9:00~) 藤井	松崎(秀)	森永井 (9:00~) 内田	森木		[予]佐藤(ひ) (14:30~) 【第2のみ 15:00~】	[予]渡辺(博) (14:00~)					
		呼吸器内科	大久保 浅野 (9:30~)	河合 田中	堀江 (9:30~)	布施川 荒木	大久保 浦野 (9:30~)					[予]平川 (13:30~)			
		神経内科		[予]大貫 (14:30~)							[予]松崎(淳) (第1のみ9:00~)				
	外科	脳神経外科		齋藤(良)	小杉 (9:30~)	齋藤(良) (9:30~)初診のみ		特殊外来	てんかん外来 【第3のみ】				[予]杉山 (10:00~11:00) 第3のみ		
		外科			前田	[予]櫻井 (13:00~)	鈴木(俊)		睡眠時無呼吸 外来		[予]荒木 (13:00~) 再診のみ				
		消化器外科							救命救急科			青木			
		呼吸器外科			杉浦	藤本			透析室					山内 (13:00) 【第1-3】	
整形外科		山本(宗)	山本(宗) 【装具外来】	野尻 (9:00~)	清水 (9:30~)	渡辺(隆) (9:00~)									
泌尿器科	浅沼				田野口										
皮膚科			岩崎 (9:15~)		小林(研) (9:15~)										

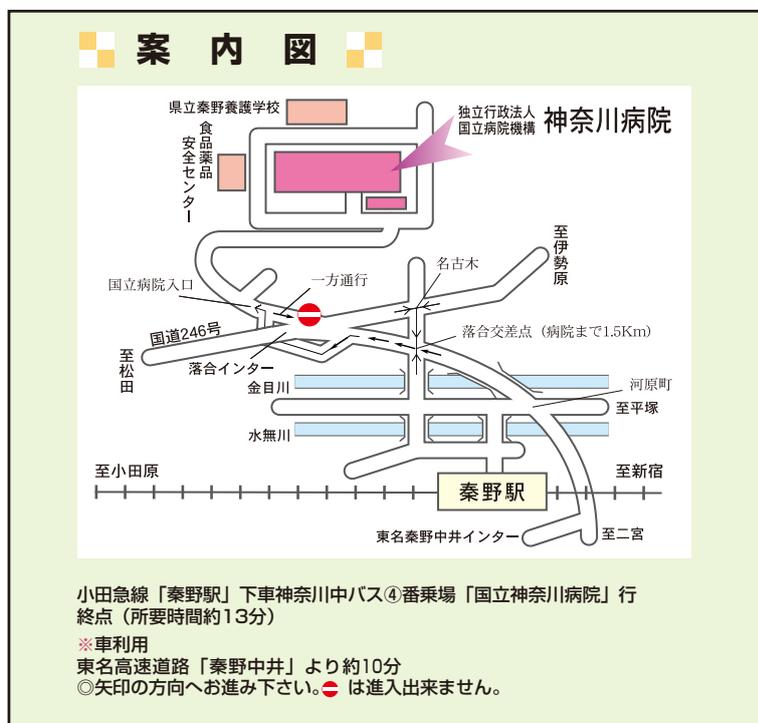
※担当医表に時間の記載がある日は、記載されている時間内の診療となりますのでご確認をお願いいたします。

【担当医表の表記について】

- ① 括弧書き (: ~)
…診察 (開始) 時間
- ② 【〇〇のみ】…特定の診察日
- ③ 【予】…予約制



発行責任者：中村 守男 編集：広報委員会



独立行政法人 国立病院機構 **神奈川病院**

〒257-8585 神奈川県秦野市落合666-1
TEL 0463-81-1771 FAX 0463-82-7533
URL <https://kanagawa.hosp.go.jp>